

アイオン台風の水害で壊滅的な被害を受けた大町通り。水が引いた後の道路をがれきや流木が埋め尽くす

関と水害

2年連続の大水害

東北最大、全国でも4位の流域面積を誇る北上川。その下流にある一関地方は、昔から水害の常襲地帯だった。狐禅寺付近から宮城県境にかけて川幅の狭い区間があるために、大雨が降ると水があふれてしまうのだ。

水害史に残る惨劇が起こったのは、戦後間もない混乱期。昭和22年にカスリン台風が、23年にアイオン台風が日本列島を襲った。岩手県内では北上川と支川が氾濫。一関では2年続けての大水害となり、多くの人命や財産が失われた。

被害を受け、国は北上川の治水を根本から見直した。ダム建設や一関遊水地を整備することにより、市街地への浸水を効果的に防いでいる。

しかし、治水事業が進む現代でも、水害は頻発している。川と共に暮らす私たちは、最悪の事態に備えておかなければならない。

未曾有の台風被害から70年。あらためて水害への備えについて考える。



機織山から見た一ノ関駅。線路の先は水没している

長雨のカスリン台風
昭和22年9月12日に発生したカスリン台風は、小笠原西方を北上。温暖前線を刺激し、14日から16日にかけて日本各地で大雨を降らせた。市内で最も激しく雨が降ったのは15日。12日から15日までの総雨量は厳美で349.8ミに達した。水位の上昇が激しかったのは狐禅寺。16日の17時には、最高水位16・89ミ

1947.9.15
カスリン台風

堤防決壊

長雨で磐井川が記録的な増水。堤防が破れ、濁流がまちを飲み込んだ。



五十人町付近。屋根の上にはふとんが敷かれている

を記録した。この水位を超えたことは今だにない。
長雨による増水に耐えきれず、磐井川兩岸の堤防が決壊したのは15日夕方。氾濫した濁流が一関の市街地を飲み込んだ。山目の花川戸（現在の青葉一丁目、中央町）などを中心に、100人が亡くなった。県内の死者130人に対し、一関の犠牲者が最も多かった。

CHAPTER 1 壊滅

[Kathleen&Ione]

カスリン・アイオン台風の猛威

Point

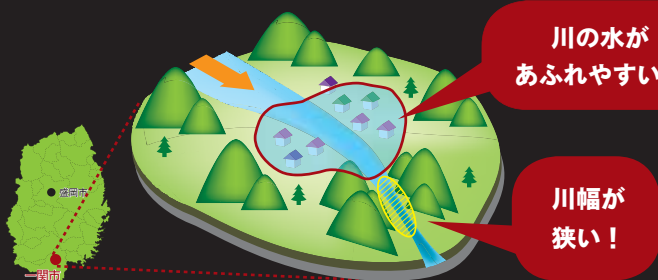
一関は水害の常襲地帯

一関地域は、古くから洪水が絶えない地域だった。その原因は、狐禅寺付近から宮城県境まで約26キロ続く川幅の狭い区間（狭さく部）があるため。最も狭い所の川幅は、100メートルほどしかない。

また、上流に比べて勾配が緩く、水を流す能力がとても

弱い。狭さく部で流しきれない水が、その手前の一関地域や平泉地域へあふれ出して洪水を引き起こしている。

北上川や多くの支川が流れている一関市では、水害のないまちをつくること（治水対策）は、最も大切な目標の一つとなっている。



上流の川幅は最大500mほどあるのに対し、狭さく部の幅は約100mほど

一関地方の主な水害の歴史

時期	原因	内容
明治43年 8月～9月	3つの台風	北上川流域で大洪水に。国の直轄事業が始まる契機になった
昭和22年 9月	カスリン台風	狐禅寺の水位は歴代最高の16・89m。磐井川の氾濫で100人が犠牲になった
昭和23年 9月	アイオン台風	前年に続き磐井川が再び氾濫。死者・行方不明者473人の大惨事
昭和56年 8月	台風15号	一関地域を中心に大きな被害。北上川の水位は狐禅寺で12・51m
平成2年 9月	台風19号	田畑が冠水するなど北上川の各地域で被害が発生した
平成10年 8月	前線＋台風4号	6日間も続く大雨で大規模な浸水被害。北上川の水位は狐禅寺で11・14m



横転したD51機関車。水流で地面もゆがむ



遺骨や位牌(いはい)を持って歩く少女



山津波襲来

1948.9.16
アイオン台風

各所でせき止められた土砂や樹木が
土石流となって市街地を襲った。

豪雨の影響で、磐井川流域には高さ5メートル以上の土砂崩れが739カ所で発生した。せき止められた水が土砂や樹木と共に押し流される土石流(山津波)となつて下流に一気に押し寄せ、上の橋や磐井

アイオン台風は、全国的な被害は少なかったものの、一関地方は最も悲惨な状況だった。その惨状は「一関全滅に瀕す」(河北新報・昭和23年9月18日)と報じられた。

川堤防を破壊。氾濫した濁流が再び市街地を急襲した。アイオン台風による一関の死者・行方不明者は473人にのぼり、前年をはるかに上回った。

カスリン・アイオン台風による被害

	カスリン台風	アイオン台風
当時の人口	34,479人	35,011人
死者	100人	234人
行方不明者	0人	239人
り災者	21,725人	19,349人
流失家屋	131戸	468戸
全壊家屋	200戸	334戸
半壊家屋	719戸	901戸
床上浸水	3,234戸	1,837戸
床下浸水	31戸	334戸
田畑の冠水	1,218ha	295ha

(出典：一関市水害復興誌)



「助けてけろ」
必死に救いを求める声

佐藤靖雄さん

さとう・やすお
83歳 三関

当時は狐禅寺に住んでいました。カスリン台風では厩舎が水に流されました。アイオン台風のときは、18時頃からのすごいスピードで磐井川が増水。家の前まで川になりました。私は家族と舟に乗って避難しました。

家の近くで、サイカチの木につかまっている子供たち6人を発見し、何とか陸に上げました。濁流に飲まれている人たちは、水面から首だけを出して必死に材木にしがみついていた。3メートル以上の大波が見えたので、救うことはできませんでした。「助けてけろ」という声が今でも耳に残っています。



北上川を38キロ漂流
忘れられぬ恐怖の記憶

千葉貞子さん

ちば・さだこ
77歳 宮前町

アイオン台風のときは、下街(現磐井町)の父が勤める製材所の事務所に、家族7人で暮らしていました。夕方、磐井川が増水したので全員で工場の屋根へ上がりました。すぐに濁流が押し寄せ、屋根ごと流されました。途中、家族が水中に投げ出されたり渦に飲まれたりしました。私も渦に巻き込まれ、気付くと一関から38キロ下流の宮城県登米市の岩場に。ぬるぬるした岩にしがみついて、一人で明け方まで震えて過ごしました。あのときの不安と恐怖は忘れられません。

私、父、長兄は助けられましたが、母は三関で遺体となって見つかりました。次兄と2人の弟は行方不明のままです。



*平成28年8月撮影(岩手河川国道事務所提供)

対策

CHAPTER

2

[Project]

洪水を防ぐ。水害を減らす。

ダムと遊水地で洪水を防ぐ

カスリン・アイオン台風による未曾有の被害を受け、国は北上川の治水を根本から見直した。昭和26年には「北上川特定地域総合開発計画」を策定。四十四田、御所、田瀬、湯田、石淵(現在の胆沢)の5大ダムを整備した。

さらに、47年には「一関遊水地事業」に着手した。遊水地とは、洪水時に河川の水を一時的にあふれさせておく土地のこと。平成18年には、150年に一度の確率の洪水にも耐えられるように計画規模を拡大した。総事業費は2700億円。平成30年代の完成を目指す一大プロジェクトだ。

【北上川と主な支川】



遊水地の仕組み

一関遊水地は、市街地を洪水から守る本堤(27・8キ)と中小洪水から農地を守る小堤(17・9キ)からなり、第

【一関遊水地の仕組み】

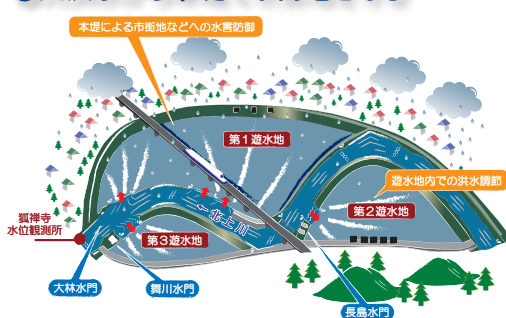
① 普段は農地として利用



② 中小洪水は小堤で食い止める



③ 大洪水から本堤で市街地を守る



磐井川堤防の改修も必要に

磐井川堤防は昭和25年に築かれ、翌26年には、復興を願って2千本の桜と梅が植樹された。市民の憩いの場に

なっていた磐井川堤防だが、想定される洪水に対しては高さや幅が不足していた。また、堤防内部に伸びた桜の木の根が腐食し、内部に空洞ができたなど、安全性に問題があった。

遊水地の中は、普段は農地として利用されている。小規模な洪水のときは、小堤で水が田畑に入るのを防ぐ。大規模な洪水のときは、遊水地内で水量を調節し、本堤で市街地を守る仕組みになっている。

国は49年から堤防改修事業を開始。対象の左右岸6地区のうち、青葉地区の工事は本年3月に完成した。今後は対岸の田村地区の工事が予定されている。全地区の工事は平成30年代の見込み。堤防の桜並木も工事に伴い伐採されたが、改修した堤防の側帯(*1)に順次、植樹が行われる予定だ。

*1 側帯…堤防の裏側(宅地側)に土砂を積み上げた部分。堤防内部に桜の根が入り込まないように対策を施してある



須藤彌志正さん

一関市北上川治水
地権者会会長

profile さとう・やしまさ
昭和19年生まれ。72歳。父・彌左衛門のあとを継ぎ、北上川治水地権者会に加入。同会副会長を経て、平成27年、会長に就任。地域の農家の生活を守るために精力的に活動する

農地を犠牲にしてもまちを守りたい

地権者の一人だった父は当初、遊水地の計画に反対していました。理由は地域経済を守るため。当初は周囲堤だけの築堤予定だったので、中小洪水が起これば広大な農地が犠牲になります。協議を進める中で、小堤によって土地が保護されるようになったことから、事業に協力することになりました。

大規模な洪水になれば、私たちの農地や育てた作物は犠牲になってしまいます。それは市街地に住む人や財産を守るために、私たちが覚悟しなければならないことだと思っています。

事業に協力するのは、遊水地のためというよりも、一関のまちを守るためという思いが強いです。

Voice

事業を後押しする住民の声

佐藤晁僖さん

磐井川堤防改修促進協議会
会長／一関商工会議所会頭

profile さとう・こうき
昭和16年生まれ。76歳。昨年から同協議会の会長を務める。磐井川堤防の早期改修のほか、水害時の安全確保のため、JR東北本線磐井川橋梁の架け替えなどを訴える



頑丈な堤防で市民の安全を確保して

私もカスリン・アイオン台風の水害を経験しました。あの頃は国全体が貧しく、復興のスピードも遅かった。市街地のがれきがなくなるまで、何年もかかったのを覚えています。

磐井川堤防は、カスリン・アイオン台風後の昭和25年に作られた古いもの。「かみそり堤」と呼ばれるほど堤防断面が小さい構造です。高さや幅も、現在の想定している洪水には不足しています。東日本大震災では、無数の亀裂が入りました。

最近はゲリラ豪雨など、昔では想像もできなかったような災害が増えています。災害はいつ来るか分からない。早く頑丈な堤防を作ってもらい、市民の安全を確保してほしいです。



国土交通省 東北地方整備局
岩手河川国道事務所一関出張所

斎藤巧 所長

profile さいとう・たくみ
昭和40年生まれ。52歳。岩手・宮城内陸地震発災時は、北上川下流河川事務所での復旧の現場監理を担当。東日本大震災では仙台河川国道事務所での復旧事業に携わる。本年4月、現職に着任。当地域の北上川治水のかじ取りを担う

一関遊水地は地域の協力があってこそ成立する

一関遊水地は、5大ダムと並び北上川の水害対策の柱。小堤では10年に一度の確率の洪水を、本堤では150年に一度の確率の洪水を想定して計画されています。

遊水地の機能は①洪水を調節②市街地への水害を防ぐ③遊水地内の土地を利用すること。地域の理解と協力なくし

ては成り立たない事業です。皆さんの「地域を守りたい」という思いを事業にしっかり反映させたいです。

現在は小堤に関連する水門などを建設中。同時に、磐井川堤防の改修や完成した施設の維持管理なども行っています。全ての事業の完成は平成30年代を予定しています。

Point

市街地への浸水防ぐ 遊水地の効果

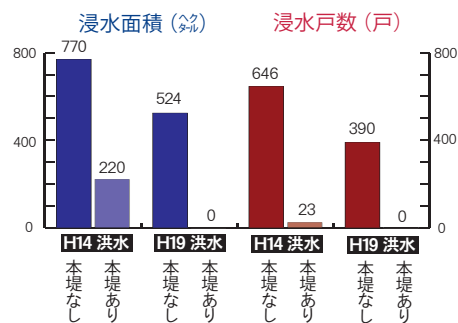
一関遊水地の本堤は、平成19年におおむね完成。14年と19年の洪水では、市街地への浸水被害を大幅に減少させたと考えられている。

① 14年7月洪水

浸水面積…550㍻減、浸水戸数…623戸減

② 19年9月洪水

浸水面積が524㍻減、浸水戸数…390戸減



*本堤なしの数値は推定値

頻発する水害。
最悪の事態に備える。

危機

[Crisis]

Case.1 平成20年6月岩手・宮城内陸地震

地震発生直後の厳美町市野々原地区。がけ崩れによる大量の土砂や樹木が磐井川をせき止めている

土石流の悪夢、再び

平成20年6月14日8時43分頃、岩手県内陸南部を震源としたマグニチュード7.2の岩手・宮城内陸地震が発生した。奥州市と宮城県栗原市で最大震度6強、一関市では震度5強を観測した。厳美町の市野々原地区や産女川地区などでがけ崩れが起き、磐井川流域の5カ所で河道閉塞（*1）が発生した。

かつて、アイオン台風による豪雨では、磐井川流域で739カ所の河道閉塞が発生。せき止められた土砂や樹木が土石流となって磐井川を流下し、市街地を破壊した。悪夢を繰り返すことのないよう、一刻も早い対応が必要だった。

Case.2 平成14年7月洪水

砂鉄川の氾濫で大規模な冠水（東山町長坂地区）



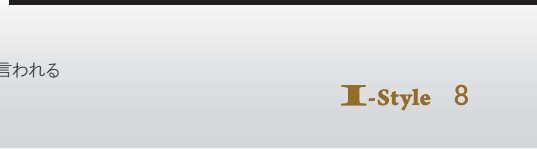
Case.3 平成25年7月洪水

損壊したガードレールと道路（大東町摺沢地区）



Case.4 平成28年10月台風10号

増水した砂鉄川（大東町大原地区）



現代も頻発する水害

岩手河川国道事務所は市野々原地区で排水ポンプの設置や仮排水路の掘削などの緊急対策を実施。産女川地区では下流の砂防堰堤の土砂を排除する工事（除石工）を行った。国などの迅速な対応により、市街地に迫った土石流の危機は寸前で回避された。

泉、大東、千厩、川崎、藤沢の各地域でも浸水被害や土砂災害が発生。JR大船渡線も長期運休に追い込まれた。昨年8月、観測史上初めて太平洋側から東北地方に上陸した台風10号は、岩泉町や久慈市などに甚大な被害を与えた。もし台風の進路が少しでも変わっていたら、本市にも深刻な影響が出ていた可能性がある。

近年、本市が見舞われた大きな水害は▼平成14年7月の台風6号による洪水▼19年9月の秋雨前線による大雨▼25年7月の集中豪雨——などである。特に14年の洪水では、東山地域で砂鉄川や猿沢川が氾濫し、災害救助法が適用されるほどの被害を受けた。花

治水対策が進む現代でも、水害は頻発している。地震など別の災害が危機の引き金になる場合もある。自然の脅威の前では、最新のダムや遊水地といえども万全ではない。川と共に暮らす私たちは、最悪の事態にいつでも備えておく必要がある。

*1 河道閉塞 …地すべりやがけ崩れなどにより、土砂が川をふさいで水の流れをせき止めること。「天然ダム」や「土砂ダム」とも言われる

Voice

自助と共助の 必要性



齋藤一公^{かずとも}

北上川学習交流館「あいぼと」
事務局長

自分の身は自分で守る

いざというときは、自分で自分の身を守るしかありません。ハザードマップなどを確認して、自分の住んでいる土地の浸水のしやすさや、水害が起きたらどこに逃げるかを決めておくべきです。

正しい判断をするためには、天気や川の最新情報も重要。テレビ、インターネットやコミュニティFMなどあらゆる手段で情報を集めましょう。



伊東俊一^{しゅんいち}

川内自主防災会
会長
(大東町大原)

普段から地域で交流を

平成27年3月、地区の一部が県から砂鉄川の浸水想定区域に指定されました。昨年の台風10号で増水したときは、以前から訓練していた経験を生かし、川内住民が一丸となって土のう300袋を川沿いに積み上げました。

高齢者世帯が多い川内のような地域は助け合いが必要。「災害時緊急見廻隊」を組織し、普段から声を掛け合っています。日頃の交流から、住民同士の信頼感が生まれています。

災害が大規模であればあるほど、行政による救助や支援（公助）は届きにくい。特に水害の発生時は、避難が遅れることで命が危険にさらされる。自らの的確な判断で自分を守る「自助」と、家族や地域の住民同士で助け合う「共助」が、多くの命を守ることにつながる。

災害が大規模であればあるほど、行政による救助や支援（公助）は届きにくい。特に水害の発生時は、避難が遅れることで命が危険にさらされる。自らの的確な判断で自分を守る「自助」と、家族や地域の住民同士で助け合う「共助」が、多くの命を守ることにつながる。

① FM あすも専用ラジオ



普段は身近な地域情報を発信し、災害時は臨時番組で関連情報を伝える。避難勧告など人命にかかわる緊急の情報は、専用ラジオが自動起動して発信する。FMあすもの周波数は「79.5MHz」。

② 防災行政無線



市内に355基ある防災行政無線（屋外スピーカー）から、緊急情報や行政情報を市内全域や地域ごとに放送している。放送された内容は、無料のテレガイド（0800・800・3174）で確認できる。

③ いわて防災情報ポータル



県内に発令中の気象注意報・警報や避難情報を確認できる。川の水位や雨量を観測できる「岩手県河川情報システム」などのリンク集も。URLは「<https://iwate.secure.force.com/>」。

あなたと大切な人を守る

最新情報

水害から身を守るためには、必要な情報をなるべく早く手に入れることが大切だ。最新情報を知るための4つの手段をピックアップ。災害が起こる前に、あらゆる方法で情報を入手しよう。

④ 北上川の洪水情報メール



携帯電話各社の「緊急速報メール」で北上川で河川氾濫のおそれがある「氾濫危険水位」を超えた情報または氾濫が発生した情報を配信される。登録は不要。該当エリアには自動でメールが届く。

Point

避難情報は「緊急度」に注目

災害が発生するおそれが高い場合に市が発信する避難情報。緊急度で名称や行動が変わる。非常時に備えて確認しておこう。

低

緊急度

高

① 避難準備・高齢者等避難開始

…高齢者の人や体が不自由な人など、避難に時間のかかる人は避難を始める。それ以外の人は避難の準備を行う。

② 避難勧告

…災害による被害発生のおそれ。対象地区の全ての人はすぐに避難する。避難場所に行くのが難しい場合は、屋内の高い場所などに避難する。

③ 避難指示（緊急）

…非常に危険な状況。対象地区の全ての人は緊急に避難する。避難場所に行くのが難しい場合は、屋内の高い場所などへ緊急に避難する。

自助と共助で命を守る

「いざというときは、自分で自分の身を守るしかない」

北上川学習交流館「あいぼと」の齋藤一公事務局長

（68）はそう言い切る。「住んでいるところのハザードマップに目を通し、自分の住んでいる土地がどれだけ浸水しやすいか確認してほしい」と訴える。最新情報を入手できるインターネットやラジオなども非常時に役に立つという。

川内自主防災会の伊東俊一（66）は「高齢者世帯が多い地域は助け合いが必要」と話し、「日頃から声を掛け合うことで、住民同士の信頼感が生まれている」と地域のコミュニケーションの重要性を強調する。

災害が大規模であればあるほど、行政による救助や支援（公助）は届きにくい。特に水害の発生時は、避難が遅れることで命が危険にさらされる。自らの的確な判断で自分を守る「自助」と、家族や地域の住民同士で助け合う「共助」が、多くの命を守ることにつながる。



CHAPTER

4

過去を胸に刻み込み、
未来への糧にする。

教訓

[Requiem]

過去から何を学ぶか

岩手町の北上川御堂観音堂の裏手にある「弓弭の泉」は、北上川の源泉といわれている。小さな泉から湧き出た滴は、やがて大きな流れとなり、私たちの生活を潤す。その一方で、台風や豪雨によつて増水した川は大きな被害をもたらす。

アイオン台風による洪水で38^キ下流の宮城県登米市まで流され、九死に一生を得た千葉貞子さん(77)は、さまざまな場で自らのエピソードを語り継いでいる。「誰かの役に立てるよう、この体験をできる限り伝えていきたい」と前を見据える。

水害による犠牲と被害を無駄にしてはならない。過去から何を学ぶかが重要だ。

教訓を未来に生かす

狐禅寺の北上川学習交流館で4月29日から6月25日まで行われた「カスリン・アイオン台風パネル展」には期間中、多くの見学者が訪れた。東山小4年の伊藤菜々香さんは「川の恐ろしさを実感した。」

水害を学び意識高める

1 市の水防訓練 消防本部消防課 ☎ 0119



降雨装置での豪雨体験、非常食の試食、消防車や重機への乗車などを体験できます。

◆日時…7月2日⑨ 9:30 ~ 14:00 * 8:00に市内一斉にサイレンを鳴らします

◆場所…磐井川河川緑地公園

2 ゲリラ豪雨展 北上川学習交流館 ☎ 0077



急増する「ゲリラ豪雨」の仕組みや身を守るポイントなどを解説。費用は無料です。

◆日時…6月29日⑩ ~ 8月16日⑩ 9:00 ~ 17:00 * 定休日は⑪ (⑪が⑩の場合は翌日)

◆場所…北上川学習交流館「あいぽーと」

3 水害体験の紙芝居 北上川学習交流館 ☎ 0077



千葉貞子さんの水害体験を描いた紙芝居「生きる」を7月1日⑫からインターネットで公開します。

◆ URL…<http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/iport/>



カスリン・アイオンを忘れない *Memorial Tour*

教訓を明日に生かす。犠牲者をしのぶ市内のイベントやモニュメント



穏やかな表情の北上川(平成29年5月29日
18時撮影・北上大橋付近)

水があふれたらどこに逃げた
らいいか、家族と話し合いた
い」と水害に対しての思いを
新たにしていた。

カスリン・アイオン台風
の惨禍から70年。2017年
は、水害の記憶に触れる節目
の年だ。過去を胸に刻み込
み、未来への糧にしよう。

これから梅雨を迎え、台風
の季節がやってくる。私たち
の備えは十分だろうか。